

東京

「其の日」暮らし

＝ドイツ編＝



これって食用？

日がどんどん短くなり、日中でも曇っている事が多く、本格的な冬の到来を実感しています。スーパーですらりと並んだ木の実やクリスマスマスのグッズを見ると、「冬ごもりの準備」と言いながらつい手が伸びてしまいます。

今の季節、家の前の歩道や近所でポロポロ落ちている街路樹の実があります。緑や熟して茶色くなった殻に包まれた実。見た目はヘーゼルナッツっぽいけど、いったい何だろうと友達に聞いてはみたのですが、「さあ？ 食べられる実ならドイツ人が放っておくわけないから、残っているのならヘーゼルナッツではないでしょ」との回答でした。インターネットで探したヘーゼルナッツの外殻とも違う様な気がするし、実際に拾っている人を見たことがなかったので、「スーパーに並んでるヘーゼルナッツに似ているけど別物で、みんなが残しているのはきつとりヌの食料にする為なのだ」と自分にも息子にもそう言い聞かせて1年が経ちました。そして先日どうもこのナッツは食べる事が出来るとわかったのです。

ある日バス停に向かう道のことです。その通り道にもたくさん例のナッツが落ちてはるはずなのに、バス停に近づくにつれ殻が割れている物が多いのです。「リスってこんな食べ方だったっけ？」と思いつつカーブを曲がると、小学5年生くらいの男の子が3人ナッツを勢いよく踏んで殻を割ってそれを食べているのです。最初は遊びで割っているだけかと思いましたが、バスを待つ間彼らを見ていたらちやんと食べているのです。それも競うように。私も子供の頃は食べられそうな実とかを遊びながら食べたりしていたので半信半疑でしたが、その後何度か違う場所で他のおじさんがナッツを拾い歩いているのを見て、「これは食べる事が出来る」と確信しました。そして土曜日の買い物に行く途中でバス停の前を通った時この出来事を旦那さんに話して、1つ試しに割って食



本格的な冬の到来を感じる風景



べてみたのです。感想は乾燥が足りないせいか少し脂分が強く感じましたが普通にナッツの味でした。ほんの少ししか食べなかったのにアクがきつかったのか、やはり食用ではなかったのか、しばらく経ってから少し喉が痒くなりました。「やっぱり食べられないのだ・・・」とちよつぱり悲しかったです。依然としてこのナッツは何なのかということが分からなままなのですが、歩道を歩くたびに「食用か否か」と考えることは確実になくなりましたが、それも何となく寂しい気がします。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞